

## ごあいさつ

助成研究成果集第33号の発行に際し、一言ご挨拶申し上げます。

当財団はオムロン株式会社の創業者であります立石一真が卒寿を迎えたのを機に、科学技術の分野で「人間と機械の調和」を促進することを趣意として1990年（平成2年）に設立しました。そして設立趣意に沿った研究課題に対して毎年助成を行ってきた結果、累積の助成件数は立石賞を含めて1,686件、助成金額は33.9億円となりました。これも日頃の皆様のご支援の賜物と感謝いたすところでございます。



本成果集の発行は成果普及活動のひとつとして行うものです。助成対象となった研究開発の成果を財団趣意に沿って方向を同じくする研究者や研究機関と共有し、研究者の相互交流の一助となることを願って、毎年実施しております。今回ご寄稿いただきました研究者の皆様をはじめ、ご協力いただいた方々に厚く御礼申し上げます。

さて、今年5月に実施した助成金贈呈式ではオンライン形式の開催ながら、助成を受けられる方々に力強く研究の抱負を語ってもらいました。研究者の皆様にはこれから未来に向かって、夢と広い視野をもってさらに邁進していただきたいと思えます。また、隔年で実施しています立石賞の表彰式および記念講演を9月に開催しました。4名の受賞者とも、当財団の趣意である「人間と機械の調和」を促進する研究において世界の第一線でご活躍されており、当日の受賞記念講演ではその真摯な研究姿勢と素晴らしい研究成果に感銘を受けました。その講演概要も本成果集に掲載していますので、研究助成を受けられた皆様においても、将来の立石賞を目指して引き続き研究を発展されることを期待します。11月には助成が終了した研究課題の研究成果を共有し、研究者同士がつながる場として「研究助成 成果発表会」を京都で開催します。この場が、研究者の育成、科学技術の発展や最適な社会環境の実現の一助となることを願っております。

財団の設立から30年以上を経た今日、日本はAI、IoT、ロボティクスおよび自動運転技術など将来に向けた研究開発が産官学連携のパートナーシップのもと進められています。当財団が目指す「人間と機械の調和」を促進する研究開発が積極的に推進される一方で、気候変動・地球温暖化をはじめ国際的な共通課題であるSDGsの実現に向けた取り組みが広がりつつあります。

先進国の中でも特に日本で深刻化しつつある少子高齢化問題を含め、社会的課題は山積しています。これらを克服し、日本が活力を再び取り戻し国際社会に貢献するためには、卓越した科学技術の力をさらに高めることが求められております。当財団は、民間の立場から微力ながらも日本の科学技術の発展に対して寄与していく所存であり、今後も研究者の皆様にも夢を託して参ります。

今後の活動に対し、皆様方のより一層のご支援、ご指導を賜りますようお願い申し上げます。

2024年10月

理事長

立石文雄